

ArcGIS

Survey123 で取得した
結果のアクセス制限

目次

概要	1
ドキュメント ショートカット	1
調査の基礎知識	2
調査フォームのアイテム	2
調査フィーチャ レイヤーとは？	2
調査の作成方法	2
一般公開された調査が意味するもの	3
一般公開された調査に関する情報の漏洩の可能性	3
修正方法: 一般公開されている調査結果へのアクセスの制限と停止	3
調査の権限の詳細	4
一般公開された調査レイヤーを見つける	4
ArcGIS Survey123 Web デザイナーで一般公開された調査のアクセス権を設定する	5
高度な設定	8
手動による調査レイヤーの設定	8
調査レイヤーの権限制御	9
フィーチャ レイヤー ビュー	12
フィーチャ レイヤー ビューを使用して結果を要約する	12
Survey123 Connect の安全なワークフロー	14
ビューの構成方法:	15
調査の一般公開	19
Web アプリケーションやダッシュボードでの調査結果の共有	21
調査フィーチャ サービスの再利用	21
Webhook	22
まとめ	23
その他のリソース	23

概要

このドキュメントでは、ArcGIS Survey123 で一般公開された調査の実施に関わる GIS 管理者、調査所有者、およびユーザーのためのプライバシーとセキュリティに関するガイダンスを提供します。以下のガイダンスでは、ベストプラクティス、一般公開された調査レイヤーの特定、具体的なシナリオの詳細、および結果を安全に保つ必要がある調査を公開する前にデータを保護するための考慮すべきさまざまな構成オプションについて説明します。

ドキュメント ショートカット

最後まで読んでいただくのが理想ですが、逆引きができるように以下にユースケースを提案しています。作業に悩んだ際にご活用ください。

- 公開された調査の回答を選別する - [3 ページ](#)をお読みください。
必要な調査の回答のみを公開し、必要に応じてアクセスの優先順位を決定してください。
- 初心者ユーザー - [2~7 ページ](#)をお読みください。
安全に非公開で調査の回答を収集するための基礎知識、用語、[Survey123.arcgis.com](https://survey123.arcgis.com) を使用して調査を作成する方法に関するガイダンスです。
- 上級者ユーザー - [8 ページ](#)からお読みください。
[Survey123.arcgis.com](https://survey123.arcgis.com) の操作に慣れているユーザー、Survey123 Connect などのツールを使用して調査を作成しているユーザー向けのガイダンスです。
- その他のコンテンツ作成者 - 調査を一般に公開していて、編集可能なコンテンツを持つユーザーは、このドキュメントにある一般的なガイダンスを参考にすることができます。

調査の基礎知識

調査フォームのアイテム

ArcGIS Survey123 で作成した調査は、簡単に入力できる回答を事前に定義できたり、音声や画像を含めたり、質問に対して迅速な収集ができるように設計されており、多くの言語に対応しています。

調査は、調査フォームと調査レイヤーで構成されています。ArcGIS Survey123 の調査フォームは、質問と静的リストまたは自由形式の回答を含む回答入力用のフォームです。調査の質問に対する回答は、調査レイヤーに格納されます。

調査結果は、集計され、意思決定に役立てることができます。共有時、調査を所有しているユーザーは元の調査レイヤーを共有すべきではありません。調査フィーチャ レイヤー ビューのみを共有する必要があります。

調査フィーチャ レイヤーとは？

調査レイヤーは、[ArcGIS Online](#) または [ArcGIS Enterprise](#) でホストされるフィーチャ サービスで、調査フォームにユーザーから入力される、データベース スキーマやレコード、その他のオブジェクトが含まれています。

調査の作成方法

この章では、[Survey123 Web デザイナー](#)を中心に説明します。Survey123 Web デザイナーでは、ドラッグ アンド ドロップの簡単な操作方法で、シンプルな調査を作成できます。Survey123 Web デザイナーは、地図中心のフォームや地理空間レイヤーの管理に関する深い理解を必要としないユーザーがスマートなフォームを作成するのに最適です。

[Survey123 Connect](#) は、高度な地理空間レイヤー管理を理解している上級者ユーザー向けです。

Survey123 Connect は、Microsoft Excel のようなスプレッドシート アプリケーションを使用して調査を作成することができるデスクトップ アプリケーションです。Survey123 Connect では、自動化はあまりできませんが、カスタム機能を備えたスマートなフォームを作成するためのきめ細かなコントロールが可能です。

[ArcGIS Hub](#) や [ArcGIS Experience Builder](#) などの他のアプリには、Survey123 と統合するウィジェットや埋め込みアプリが組み込まれており、調査の回答もデフォルトで安全になっています。

一般公開された調査が意味するもの

一般公開された調査の定義は、データを送信したい人が誰でもアクセスできることですが、送信されたデータを誰でも見ることができることを意味するものではありません。よく使用されるケースとしては、匿名でデータを収集することが挙げられます。使用例によっては、一部の管理者または調査所有者のみが回答を確認できるようにすることが望ましい場合もあります。他のケースでは、収集したデータをすぐに公開することが調査の目的である場合もあります。このガイドでは前者のシナリオ、アクセス制御された回答に伴う匿名調査についてのガイダンスを提供することを目的としています。

一般公開された調査に関する情報の漏洩の可能性

一般公開された調査で、レイヤーの [更新] および [クエリ] 機能が有効になっているなど、不適切に構成されている場合、権限のない個人が ArcGIS Rest API を介して調査レイヤーの変更、削除、エクスポート、または誤ったデータや誤解を招くようなデータの追加を行うことができます。これらの行為は、データの機密性や、データの出所、信憑性、および完全性を適切に検証されているという保証に影響を与え、データ セキュリティに重大な影響を与える可能性があります。

修正方法: 一般公開されている調査結果へのアクセスの制限と停止

大規模な ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise のお客様で、多くのユーザーを抱え、コンテンツが充実している場合、組織内でホストされているすべての調査フォームやレイヤーを操作して、各項目の共有設定や編集設定を検証するのは時間がかかる場合があります。発見をより管理しやすくするために、Esri Software Security and Privacy チームは、[ArcGIS Online Security Advisor](https://trust.arcgis.com/ja/) の Public Survey123 Check ツール (英語版のみ提供) を開発しました。ArcGIS Security Advisor の目的は、ArcGIS Online または Enterprise 組織の構成設定およびコンテンツに関するセキュリティ情報をお客様に提供することです。

インストール不要で、以下のように数クリックで調査の回答を発見し、素早く一般公開を中止することができます。

1. <https://trust.arcgis.com/ja/> を参照し、青い [[Launch Security Advisor](#)] ボタン (右上) をクリックします。
2. 調査の場所によって ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise のいずれかをクリックします。
3. 組織の管理者認証情報を入力し、サイン インをクリックします。
4. 画面の左側にある Application Modules の [Public Survey123 Check] をクリックします。

5. 一般に公開されている調査の回答がすべて表示されます。一般公開したくない調査の回答が表示されている場合は、次の通りに進めます。
 - a. [Review Survey Settings (調査設定の見直し)] をクリックすると、Survey123 の編集者画面が開きます。
 - b. [送信者ができること] を [新規レコードの追加のみ] に変更し、[保存] をクリックします。
 - c. Security Advisor に戻り、上部にある [Scan] をクリックすると、調査が修正され、リストから削除されます。
 - d. 回答を一般公開したい調査のみが表示されるまで、手順 a～c を繰り返します。

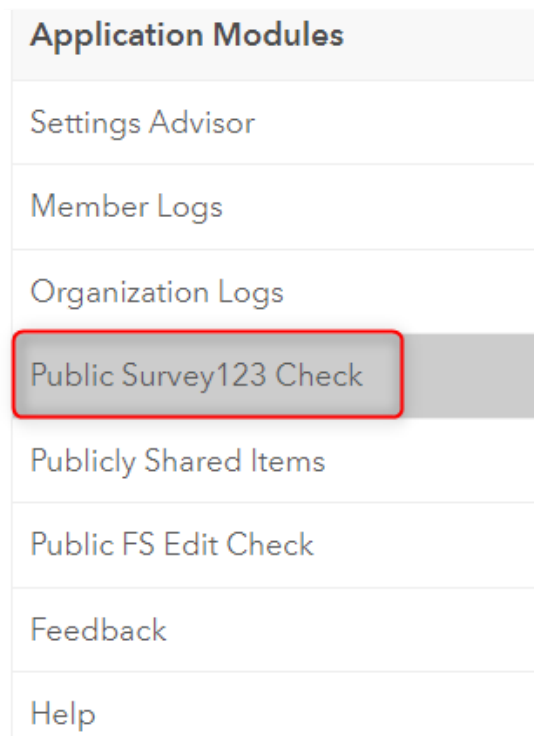
上記のステップ 5 は、調査結果の公開を速やかに停止するための判定メカニズムです。セキュリティ設定オプションの詳細と対応する画面設定を確認したい場合は、次のセクションに進んでください。

調査の権限の詳細

一般公開された調査レイヤーを見つける

Public Survey123 Check ツールにアクセスするには、[ArcGIS Trust Center](#) から ArcGIS Security Advisor に移動し [サイン イン] ボタンをクリックします。

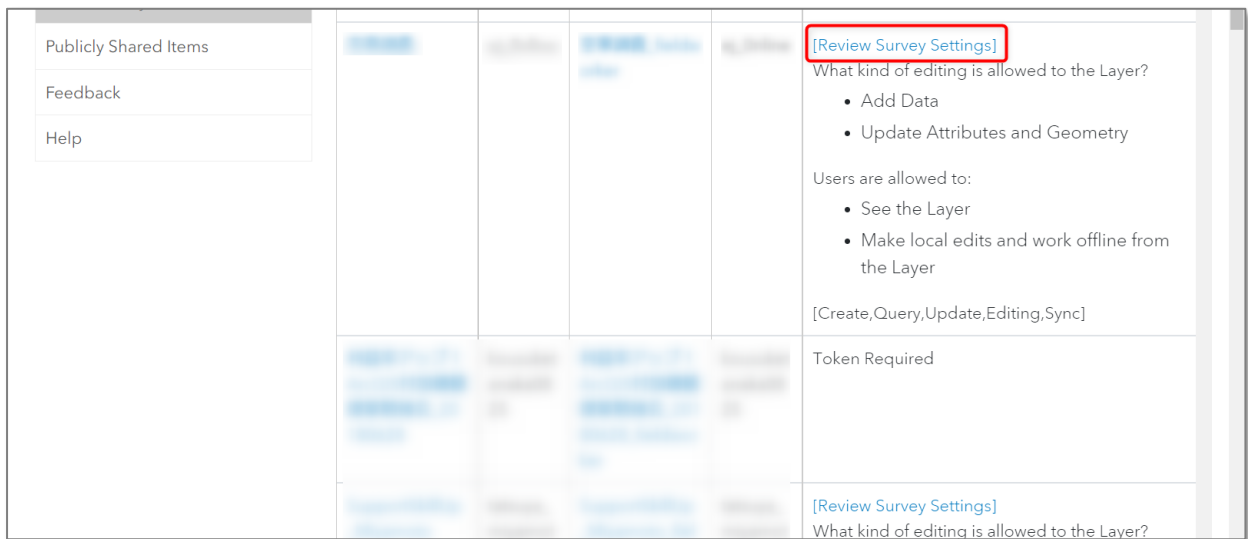
図 1: ArcGIS Security Advisor の Application Modules



ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise 組織のメンバーで、管理者ロールの権限を持つユーザーを使用してサイン インし、Application Modules の [Public Survey123 Check] をクリックします。Public Survey123 Check モジュールを使用すると、ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise 組織の管理者は、公開されているすべての調査結果をすばやく照会して特定することができます。

[Review Survey Settings] リンクをクリックすると、[Survey123 アプリケーション](#)で調査の設定が開きます。必要に応じて編集オプションを更新することができます。次のセクションでは、Survey123 の設定について詳しく説明します。

図 2: ここに掲載されているすべての調査について、調査の回答が公開されています。



ArcGIS Survey123 Web デザイナーで一般公開された調査のアクセス権を設定する

はじめに、調査の所有者は、認証情報を要求せずに調査結果を送信できるように、調査フォームを一般公開する必要があります。これを行うには、調査の所有者が ArcGIS Survey123 Web サイト <https://survey123.arcgis.com> にアクセスする必要があります。

1. 調査が一般公開されているか確認するには、ArcGIS Survey123 Web サイトにサイン インし、調査の [共同作業] タブを開きます。
 - [共同作業] タブで [調査の共有] が選択されていることを確認します (①)。
 - [この調査に送信できるユーザー] オプションで [すべての人 (パブリック)] のチェックボックスをオンにします (②)。

図 3: 調査の共有オプション



- [送信者ができること] の追加オプションを確認します。機密情報が収集される調査では、送信者が新しいレコードの追加のみを許可するように設定する必要があります。
- ✓ 調査が一般公開されている場合、[レコードの追加および更新]、[レコードの追加、更新、削除] は禁止（チェックを外した状態）にする必要があります。
- ✓ 調査が一般公開されている場合、[レコードの追加および更新]、[レコードの追加、更新、削除] を許可すると、ユーザーが調査レイヤーを照会し、データのエクスポートや変更ができるようになります。
- ✓ **警告：** 一般に公開されている調査でこれらのオプションを有効にすると、一般のユーザーが個々の調査の回答を見ることができるようになります。予期しないプライバシーの侵害につながる可能性があることに留意してください。

図 4: 送信者ができること

[レコードの追加および更新]、[レコードの追加、更新、削除] のいずれかを選択した場合、調査の所有者は、オプション選択時と調査保存時の 2 回注意を促されます。

図 5: 調査の回答が公開されます。の警告

2. [保存] をクリックします。

図 6: 保存時に、選択した項目が意図したものであることを確認するための追加警告

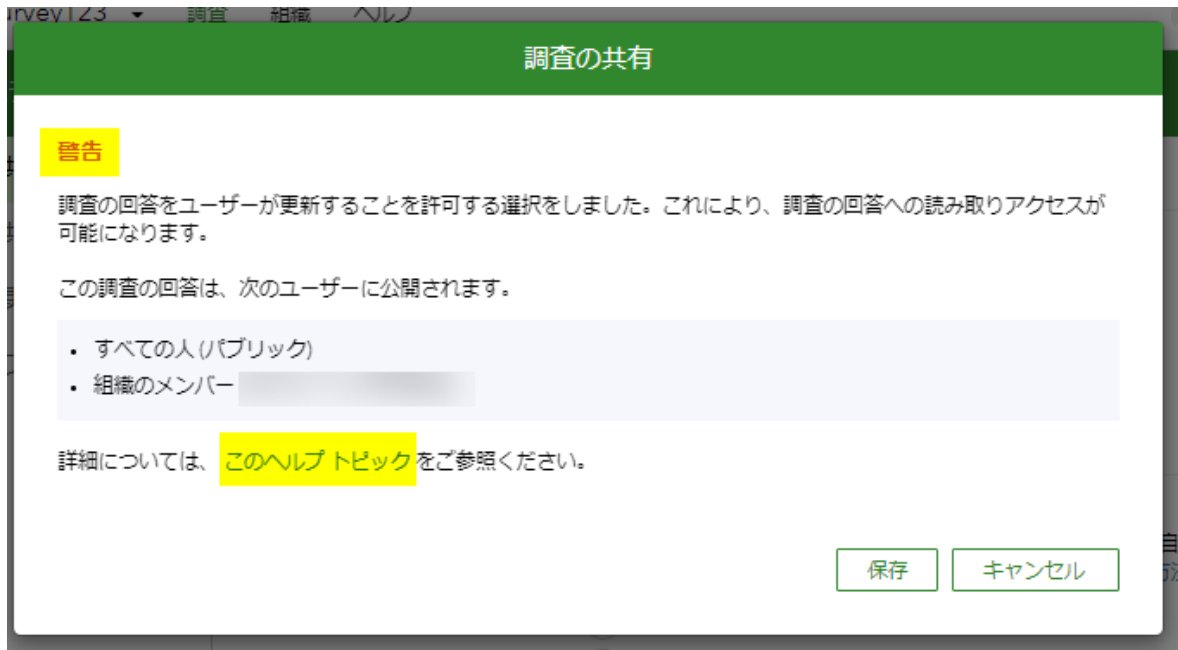


図 7: これらのオプションに関する Survey123 のヘルプトピック

- **[すべてのユーザー (パブリック)]** - 匿名ユーザーが調査に回答を送信できます。

⚠ 注意:

公開調査に機密情報が含まれている場合、パブリックドメインのユーザーがデータのダウンロード、照会、変更をできないように調査を構成します。データの保護に関するベストプラクティスの詳細については、ドキュメント「パブリックな Survey123 の回答へのアクセス制限」をご参照ください。「公開調査でのデータの保護 (Survey123 Web デザイナー)」と「公開調査でのデータの保護 (Survey123 Connect)」のブログ投稿でも、ベストプラクティスについて説明されています。

デフォルトでは、匿名ユーザーは匿名で送信された回答を表示できません。匿名の回答を表示する権限は、フィーチャレイヤーの設定を通じて管理できます。詳細については、「[編集の設定の管理](#)」をご参照ください。

フィーチャレイヤーの設定を通じて権限を構成すると、予期しない問題が発生する可能性があります。調査を再公開すると、フィーチャレイヤーの設定の変更が失われます。

💬 注意:

ユーザーは、組織内のロールに「**アイテムをパブリックに共有**」権限が欠けている場合や、組織が「**ユーザーにアイテムのパブリックな共有を許可**」セキュリティ設定を無効化している場合、調査をパブリックに共有できません。

高度な設定

手動による調査レイヤーの設定

- ArcGIS Online 組織または、ArcGIS Enterprise インスタンスのホーム アプリケーションを使用して調査レイヤーを構成することは、高度なオプションです。
- このオプションは、ホスト フィーチャ レイヤー ビューの作成と保護に精通している場合のみ使用してください。
- ArcGIS Online 組織または ArcGIS Enterprise を使用して調査レイヤーを構成することは、調査を実行するうえでほとんど必要ありません。
- セキュリティ オプションの設定を誤ると、重大なデータ漏えいにつながる可能性があります。
- Survey123 Connect ではビューは作成されません。Survey123 Connect を使用する場合は、ビューを手動で作成する必要があります。
- Survey123 Connect のビュー設定については、以下の「Survey123 Connect の安全なワークフロー」のトピックで説明します。
- 調査の要件を理解したうえで作業を進めてください。
- 不明点がある場合、[Survey123.arcgis.com](https://survey123.arcgis.com) を使用して調査を管理することをお勧めします。

調査レイヤーの権限制御

上級ユーザーは、調査の基本となる調査レイヤーのセキュリティ オプションを設定することができます。これらのオプションは ArcGIS Online 組織または ArcGIS Enterprise インスタンスいずれでも、調査レイヤーのアイテム詳細ページのプロパティで設定できます。これらのオプションを設定するには、ArcGIS Online ホーム アプリケーションを使用して、調査レイヤーの設定画面に移動します。

1. ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise ポータルにログインし、[コンテンツ] タブに移動します。
2. 調査フォルダーを開きます。調査フォルダー名には、「Survey-」の後に調査名が付いています (①)。フォルダー内のフォーム アイテムをクリックして、フォーム アイテムのアイテム詳細ページにアクセスします (②)。

図 8: 調査アイテム



3. 次に、フォーム アイテムの詳細ページで、レイヤー名 ([レイヤー] の見出しの下) をクリックして (③)、調査レイヤーの詳細ページを開きます。

図 9: 調査レイヤー



4. 調査レイヤーの詳細ページで、[設定] タブ (④) をクリックして一番下 (Feature Layer) までスクロールします。

図 10: 調査レイヤーの設定



[設定] タブでは、調査レイヤーの権限を細かく制御することができます。Survey123.arcgis.com のウィザードを使用して調査を作成した場合、調査レイヤーは [form ビュー](#) になります。

Form ビューは Survey123.arcgis.com で調査を作成すると自動で作成されます。Results ビューは、Survey123.arcgis.com を使用して共有設定を変更したときに作成される場合があります。

警告：調査レイヤーのオプションをよく確認してください。収集したデータ（調査の回答）が他人に公開されないようにするためには、デフォルト値を使用します（図 11 参照）。利用可能なその他の設定の詳細は「[編集設定](#)」をご参照ください。

図 11: 調査レイヤー編集者のデフォルト オプション（調査の回答は公開されません）

項目	設定
編集の有効化	オン
同期の有効化	オフ
どのような種類の編集が許可されていますか？	[追加] のみ（ホスト フィーチャ サービスからの継承）
どのフィーチャを編集者は閲覧できますか？	編集者は、各自が所有するフィーチャのみを閲覧できる（編集情報の記録が必要）
匿名の（サイン インしていない）編集者はどのようなアクセスが可能ですか？	上記で許可されている場合、新しいフィーチャの追加のみ（編集情報の記録が必要）
データのエクスポート	オフ

図 12: 調査レイヤーの設定画面

Feature Layer (ホスト、ビュー)

保存

キャンセル

ホストフィーチャレイヤー ビュー

ビューの更新

ホストフィーチャレイヤー ビューのソースレイヤーと定義を更新し、ビューにレイヤーを追加するか、ビューからレイヤーを削除します。

* 設定は、このフィーチャレイヤー ビューを作成した元のホストフィーチャレイヤーで行う必要があります (○○区 マラソン 申込)。

編集

☒ 編集の有効化

☐ データの変更 (フィーチャの追加、更新、削除) を記録します。 *
☐ データを編集したユーザー (編集者名、編集日時) を記録します。 *
☐ 同期の有効化 (オフラインでの使用および共同作業のために必要)。

• 誰がフィーチャを変更できますか？
このレイヤーを特定のユーザーのグループまたは組織と共有するか、あるいは [概要] タブの [共有] ボタンを使用してパブリックに共有します。このレイヤーは共有できません。

• どのような種類の編集が許可されていますか？

☒ 追加
☐ 削除
☐ 更新

• どのフィーチャを編集者は閲覧できますか？

☐ 編集者は、すべてのフィーチャを閲覧できる
☒ 編集者は、各自が所有するフィーチャのみを閲覧できる (編集情報の記録が必要)
☐ 編集者は、自身が追加したフィーチャも含め、一切のフィーチャを表示することはできません。

• どのフィーチャを編集者は編集できますか？

☐ 編集者はすべてのフィーチャを編集できる
☒ 編集者は、各自が所有するフィーチャのみを編集できる (編集情報の記録が必要)

• 匿名の (サイン インしていない) 編集者はどのようなアクセスが可能ですか？

☐ サイン インしている編集者と同じ
☒ 上記で許可されている場合、新しいフィーチャの追加のみ (編集情報の記録が必要)

• 編集を管理できるのはだれですか？

☐ 本かた

データのエクスポート

☐ 他のユーザーが別の形式にエクスポートすることを許可します。

保存

キャンセル

- 右下の [保存] をクリックし、収集したデータが公開されないようにするために調査レイヤーへの変更を反映させます。
- 最善の方法として、フィーチャ レイヤー設定に加えられた変更が Survey123.arcgis.com で反映されたか確認するのをお勧めします。

フィーチャ レイヤー ビュー

フィーチャ レイヤー ビューを作成する機能は、ArcGIS Online および ArcGIS Enterprise の強力な機能です。ホスト フィーチャ レイヤー ビューを使用すると、データ内に複数のユニークなウィンドウを作成し、対象者に合わせてカスタマイズすることができます。作成したビューは同じプライマリ フィーチャ レイヤーを参照するため、データの重複はありません。ホスト フィーチャ サービス ビューを使用すると、調査の所有者が結果を匿名化したり、シンボルを変更したり、その他にデータを対象者やユース ケースに応じて異なる方法で表示したりすることができます。

ホスト フィーチャ レイヤー ビューは、ホスト フィーチャ データへのアクセスを制御するのに最適です。ホスト フィーチャ レイヤーを編集可能にして、データの編集が必要なメンバーのグループだけに共有することができます。そして、ホスト フィーチャ レイヤーからホスト フィーチャ レイヤー ビューを作成し、その上で編集を有効にせず、収集したデータに適切なアクセス権を持つメンバーにビューを共有することができます。

フィーチャ レイヤー ビューを使用して結果を要約する

調査と調査レイヤーの設定を完了したら、新しいビュー レイヤーを作成することができます。ビュー レイヤーは、ダッシュボード、Web マップ、またはレビューのための他のアプリケーションで参照することができます。フィーチャ レイヤー ビューを作成するには、はじめに調査レイヤーのアイテム詳細ページにアクセスします。

1. 調査フォルダー内の調査レイヤーをクリックして、調査レイヤーのアイテム詳細ページにアクセスします。
2. [概要] タブの右側にある [ビュー レイヤーを作成] をクリックします。

図 13: ビュー レイヤーの作成



3. [ビュー レイヤーを作成] のステップに従って、[次へ] をクリックしていきます。
 - A) [レイヤーの選択] … ビュー レイヤーを作成する調査レイヤーを選択します。
 - B) [ビューの定義 (オプション)] … 選択したレイヤーをクリックし、[フィールド] を展開し、ビュー レイヤーで表示するフィールドを選びます。

図 14: ビューの定義

ビュー レイヤーを作成

1. レイヤーの選択
含めるレイヤーを選択します。

2. ビューの定義 (オプション)
表示するデータを決定します。

レイヤー定義
OO区 マラソン 申込 - survey

フィールド
13/13

フィールドの選択

ObjectID

GlobalID

CreationDate ×

Creator ×

- C) [ビューの作成] … ビュー レイヤーのタイトルとタグ、サマリーを入力し、[作成] をクリックします。タイトルは、特殊文字を含まない英数字で入力してください。

図 15: ビューの作成

1. レイヤーの選択
含めるレイヤーを選択します。

2. ビューの定義 (オプション)
表示するデータを決定します。

3. ビューの作成
ビューを作成します。

作成
OO区 マラソン 申込

タイトル
OO Ward Marathon Applicati

フォルダー
Survey-OO区 マラソン 申込

カテゴリ
住民イベント

タグ
Survey123 ×
タグの追加

サマリー
OO区マラソンイベント

残り文字: 2037

← 戻る 作成

キャンセル

4. 作成したビュー レイヤーで [ビジュアライゼーション] タブを開きます。
5. [\[ビジュアライゼーション\]](#) タブでは、フィーチャを集約したり、ヒートマップで表示したり、その他の方法でデータをさらに匿名化して、必要に応じて個人を特定できる情報を減らしたり、排除したりすることができます。[ビジュアライゼーション] タブを使用すると、Map Viewer でレイヤーを開くことなく、フィーチャ レイヤーのデフォルト プロパティを変更できます。レイヤーのスタイルの変更、フィルターの適用、ポップアップの設定、またはレイヤー内のフィーチャのラベル付けを行うこともできます。また、凡例でレイヤーを非表示にしたり、更新間隔を変更したりすることもできます。変更すると [レイヤーの保存] ボタンがアクティブになるので、クリックして設定を反映します。
Map Viewer にレイヤーを追加した場合と同様に、[ビジュアライゼーション] タブには、レイヤーを探索するためのナビゲーション ツール、ベースマップ ギャラリーへのアクセス、住所や場所を検索するための検索ボックスが用意されています。
6. 最後に、ダッシュボード、アプリケーション、または他の Web GIS クライアントで利用するための新しい Web マップにビュー レイヤーを追加します。

Survey123 Connect の安全なワークフロー

Survey123 Connect はビューを作成せず、調査が削除または変更されたときにもビューを管理しません。今後のリリースでは、これらの問題の改善を予定しています。

Survey123 Connect を使用して調査を作成する場合、フィーチャ レイヤー ビューを手動で作成し、調査の回答データを他者からアクセスできないようにする必要があります。ビューは、調査が完成した時点で作成する必要があります。調査の作成は、繰り返し行われる手順で、調査の所有者が、調査の質問を追加、変更、削除することはよくあります。これらの変更の一部は、調査フィーチャ レイヤーのスキーマに影響します。調査がビューで構成されている場合、Survey123 Connect ではソース レイヤーを変更することができません。Survey123 Connect での調査設計と開発が完了するまで、ビューは作成しないでください。

1 つは Survey123 Web サイトで調査結果を確認するユーザー用、もう 1 つは Web サイトおよびフィールド アプリでデータを送信するユーザー用の少なくとも 2 つのビューを作成する必要があります。はじめに、調査結果へのアクセスを制御するためのビューを作成します。

ビューの構成方法：

1. Survey123 Web サイトにログインし、調査を開きます。
2. [共同作業] タブに移動します。
3. [結果の共有] に切り替えて、調査結果へのアクセス権を持つユーザーと、そのユーザーに付与する権限を選択します。
4. [保存] をクリックします。[調査結果の共有] のリンクを使用して、調査結果の閲覧や解析が必要なユーザーと共有することができます。

図 17: Survey123.arcgis.com を使用した結果ビューの作成

この新しいビューでは、Survey123 Web サイトを使用して調査結果を確認できるユーザーを管理します。Survey123 Web サイトの [共同作業] タブにある [結果の共有] パネルを使用して、このビュー レイヤーの権限を管理します。Survey123 の [共同作業] ツールでは、フォームの共有と、results ビューのプロパティが同期して維持されるため、ArcGIS Online のホーム アプリケーションからビューのプロパティを変更することはお勧めしません。

次に、Survey123 Web アプリとフィールド アプリ用のビューを作成する必要があり、手動で構築する必要があります。

1. arcgis.com Web サイトにログインし、[マイ コンテンツ] タブをクリックします。
2. 調査フォームの詳細ページを表示します。
3. レイヤー セクションの、調査フィーチャ レイヤー リンクをクリックすると、調査フィーチャ レイヤーのアイテム詳細ページが表示されます。
4. [ビュー レイヤーを作成] をクリックし、任意でフィーチャ レイヤー ビューのタイトルを選択し、ビュー レイヤーを作成します。

図 18: ArcGIS Online ホーム アプリケーションを使用した調査ビューの作成



5. 作成したビュー レイヤーの [設定] タブの [編集の有効化] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

フィーチャ レイヤー ビューを使用して調査を行うには、調査の [submission URL](#) と `form_id` XLSForm を設定します。

- 次に、Survey123 Connect で、調査一覧から [新しい調査] をクリックし、組織の [フィーチャ サービス] オプションを選択します。
- 作成したフィーチャ レイヤー ビューを探し、新しい調査に任意の名前（例: temp）を付けます。
一時的な新しい調査の XLSForm を開き、[settings] ワークシートに切り替えます。

図 19: 一時的な調査

- `form_id` および `submission_URL` セルの値をテキスト エディターまたは安全な場所にコピーします。これらは後で元の調査に貼り付けます。

図 20: XLS form の更新

	A	B	C	D	E	F
1	form_title	form_id	instance_name	submission_url	default_language	version
2	〇〇区_マラソン_申込	survey		https://www.arcgis.com/sharing/rest/content/items/05f19		
3						

survey choices settings Version Question types Appearances Field type ...

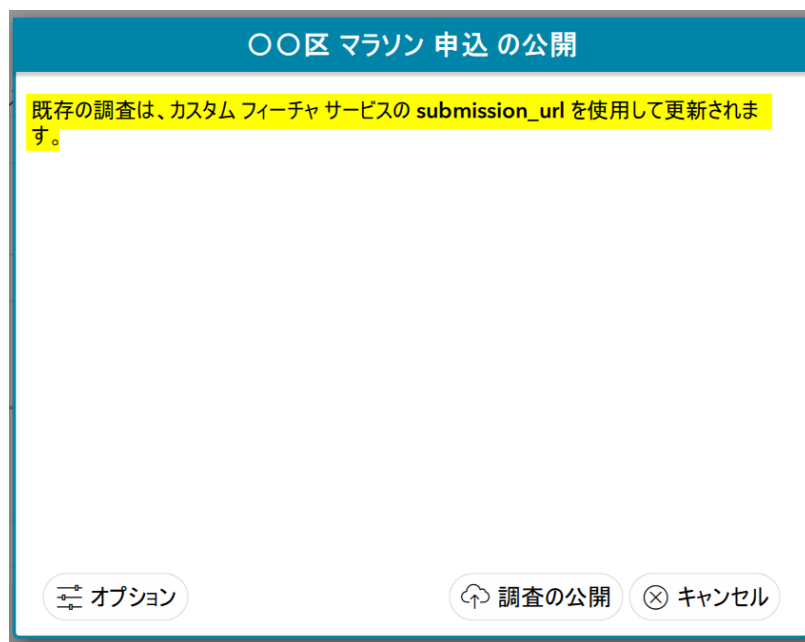
submission_URL 値は調査が対象とするフィーチャ レイヤー（またはフィーチャ レイヤー ビュー）を定義します。空白の場合 Survey123 Connect は調査を公開にするときに新しいフィーチャ レイヤーを作成します。

値を指定すると、調査は *submission_URL* で定義したレイヤーを対象として公開されます。*form_id* の値は調査の質問を作成する、フィーチャ レイヤーのサブ レイヤーを定義します。

9. Survey123 Connect の調査一覧に戻り、公開する調査（ここでは「〇〇区マラソン 申込」）を開きます。
10. XLSForm を開き、[settings] ワークシートの *submission URL* と *form_id* の値を貼り付けます。
11. XLSForm を保存し、調査を再度公開します。

公開ダイアログでは、次のスクリーンショット（図 21）にあるように、既存の調査が更新され、「カスタム フィーチャ サービスの *submission url* を使用して更新されます。」という警告が表示されます。

図 21: 公開ダイアログ



調査を更新し、フィーチャ レイヤー ビューを定義することで、安全に調査を公開することができます。Survey123 Web サイトから調査と調査結果の両方を共有し、調査結果を匿名化し公開することがより適切です。そのため、個々の結果の共有は推奨されません。

調査の一般公開

ArcGIS Survey123 を直接使用する場合でも、[ArcGIS Hub](#) や [ArcGIS Experience Builder](#) などのアプリケーションにウィジェットを埋め込む場合でも、調査を安全に収集し公開するには、以下のガイダンスが適用されます。

1. Survey123 Web サイトにログインします。
2. 調査一覧から、調査の [共同作業] タブを開きます。

図 22: 調査の共同作業タブ



[調査の共有] パネルでは、調査にデータを送信できるユーザーを制御します。[調査の共有] パネルの [この調査に送信できるユーザー] セクションで、[すべての人 (パブリック)] チェックボックスをオンにして調査を公開します。

図 23: 調査の共有オプション



3. [送信者ができること] セクションで、デフォルトの [新規レコードの追加のみ] であることを確認します。これにより、調査結果は一般に公開されません。調査結果を非公開にするには、このオプションをオンにしたままにします。
4. 下部の [保存] をクリックすると、すべての変更が反映されます。

図 24: 調査の共有オプション

〇〇区 マラソン申込

概要 設計 共同作業 解析 データ 設定

調査の共有

結果の共有
調査の更新
グループ設定

送信者ができること

Survey123 Web サイトで結果を編集するときは、送信者は自分自身のレコードを更新および削除することしかできません。調査を共有する方法の詳細

☒ 新規レコードの追加のみ

☐ レコードの追加および更新 (読み取りアクセスが有効)

☐ レコードの追加、更新、削除 (読み取りアクセスが有効)

ドラフトモード

ドラフトモードでは、回答者が調査に回答すると、回答が自動的にローカルのブラウザーに保存されます。回答者は、後で同じブラウザーで調査を再開できます。調査が再公開された場合、ドラフトのデータは利用できない可能性があります。

☐ ドラフトモードの有効化

複数の送信

☐ 複数の送信を許可

☒ 送信者ごとに 1 回の送信しか許可されません。

調査ステータス

この調査は現在オープンしています。

☒ オープン: 回答を受け入れる

☐ クローズ: 回答を受け入れない

☐ オープン/クローズ日時 (+09:00 タイムゾーンに基づく) スケジュール設定

保存

調査が公開され、Survey123 Web アプリとフィールド アプリの両方から、誰でもデータを送信できるようになりました。

[共同作業] タブで [新規レコードの追加のみ] が定義されているため、Survey123 Web アプリまたはフィールド アプリから、ビューを使用して調査の回答の照会、更新、削除、またはダウンロードを行うことはできません。調査のホスト フィーチャ レイヤーも安全で、他の Esri アプリやサードパーティ アプリ、プログラムによるアクセスから (新しいレコードの追加を除く) あらゆる種類のアクセスを防ぐことができます。

arcgis.com のマイ コンテンツに戻り、調査フォルダーを確認すると、フィーチャ レイヤー ビューとフォーム アイテムが一般公開され、フィーチャ レイヤーは所有者だけに共有されています。

データの安全を保つためには、ソース フィーチャ レイヤーを共有しないでください。

Web アプリケーションやダッシュボードでの調査結果の共有

Survey123 Web アプリとフィールド アプリのためにフィーチャ レイヤー ビューを作成した手法は、[ArcGIS Hub](#) や [ArcGIS Experience](#) などの他のアプリの作成時にも応用することができます。

これらのアプリも適切に共有（例: パブリック ビューへのアクセス）する必要があります。これらのアプリを共有する方法については、以下のガイダンスをご参照ください。

- [ArcGIS Experience Builder: 共有設定の変更](#)
- [ArcGIS Hub: 表示アクセスの付与](#)

調査フィーチャ サービスの再利用

作成したばかりのフィーチャ レイヤー ビューの再利用や、作成元のフィーチャ レイヤーを共有することはお勧めしません。その代わりに、新しいビューを作成し、Web アプリのニーズに合わせてデータへのアクセスを制限し、それに応じて共有します。

Webhook

[Webhook](#) は、HTTP POST リクエストを使用して、コールバックを渡し、複数のアプリケーションの相互対話を可能にするための広くサポートされている方法です。詳細については、「[Webhook に関する Wikipedia のページ](#)」をご参照ください。Webhook の一般的な使用法は、電子メールや SMS による通知の送信、ソーシャル メディアへのメッセージ投稿、スプレッドシートへのレコード自動書き込み、エンタープライズ データベースの更新などです。

ArcGIS Survey123 では、Webhook を設定して、調査の回答の送信時に作動させることができます。

たとえば、フィーチャ レイヤーへの情報送信に成功した後、Webhook を呼び出し、別のアクション（通知電子メールの送信、スプレッドシートへの調査コンテンツの付加、アラートの送信など）を実行できます。

警告 : Webhook は、インターネット上のアプリケーションのため、しばしば過剰なデータ露出の原因となります。そのため、Webhook とアプリケーションの専門家による広範な調査、テスト、および非本番情報セットによるセキュリティ検証後のみ、本番に利用されるべきです。

Webhook を公開する調査で使用する前に、プロバイダーのレビューを十分に受けることを強くお勧めします。Webhook を使用するのには、認証で保護された ArcGIS Survey123 フォームだけにしてください。

公開された調査に添付された Webhook は、悪意のあるユーザーによって悪用される可能性があります。

一部のプロバイダーは、認証情報が保存され、規則や規制が適用されない国でデータが処理される可能性があるため、データ主権義務を負う利用には適さない場合があります。

Webhook を使用した公開調査の代替案として、セキュリティで保護された [ArcGIS Hub](#) サイトと組み合わせて調査を活用する方法があります。この場合、ユーザーはコミュニティ ID でサイン アップし、その認証情報を使用して Hub コミュニティ経由で調査にアクセスする必要があります。

まとめ

共有と権限の設定に一貫性を保証する為、ArcGIS Survey123 Web サイトの [共同作業] タブで、調査にデータを送信できるユーザーを定義することを強くお勧めします。

上級ユーザーは、組織内で使用するために調査データへのアクセスの有効化や、特定のデータ（行またはフィールド）を共有することができます。調査レイヤーを元に新しいフィーチャ レイヤー ビューを作成し、そのための権限やアクセス権を個別に制御することを強くお勧めします。

この文書に記載されているガイダンスと手順は、調査の回答データを一般公開すると同時に Survey123 のフォームからデータを送信できるようにすることで、予期せぬ事態を防ぐのに役立ちます。

その他のリソース

ArcGIS Survey123 のドキュメント

- [ガイド ツアー](#)
- [ホスト フィーチャ レイヤー ビュー](#)
- [調査の共有](#)

一般公開された調査データを安全に保つためのブログ記事

- [Survey123 Web デザイナー](#)
- [Survey123 Connect](#)

製品のセキュリティとプライバシーに関するガイダンス

- [ArcGIS Trust Center](#)



Survey123 で取得した結果のアクセス制限

2022 年 12 月 28 日

ESRI ジャパン株式会社

<https://www.esri.jp/>

Copyright(C) Esri. 無断転載を禁ず

本書は Esri 社著作の [Discovering and Limiting Access to Public Survey123 Results](#) version 2.0 を翻訳したものです。

本書に記載されている社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

本書に記載されている内容は改良のため、予告なく変更される場合があります。

本書の内容は参考情報の提供を目的としており、本書に含まれる情報はその使用先の自己の責任において利用して頂く必要があります。

